



パレスチナ：ガザで開催された PA 統一政権の閣議

10月9日、パレスチナ自治政府(PA)のハムダッラー首相は、首相就任後、初めてガザを訪問した。同首相は、イスラエル軍に破壊された市街地を視察した後、ガザで初めての統一政権の閣議を開催した。ガザに居住する閣僚で、イスラエル側が西岸への移動を許可しなかった閣僚らは、今回、初めて閣議に参加した。PAの閣議が、ガザで開催されるのは2007年以来である。ハムダッラー首相一行は、西岸からイスラエルを経由してガザを訪問した。閣議に参加した閣僚の一部は、その後カイロに向かい、12日から開催されるガザ復興支援会議に参加し、他の閣僚はガザに残留して住民との協議を行うと報道されている。

10月12日にカイロで開催されるガザ復興支援会議で、PAは40億ドルの支援を要請する予定である。UNRWAは、16億ドルの拠出を参加国に要請すると報道されている。同会議には、米国のケリー国務長官が参加する。

評価

パレスチナ自治政府の閣議が、ガザで開催されたのは、統一政権がガザで実質的な統治を開始するための重要な一歩になる。また援助資金・物資がハマースに流用されることを警戒している国に対しては、PAのガザ統治が開始されつつあることを示す効果もあった。統一政権のガザ統治開始にとって、ガザのハマース系公務員に対する給与支払遅延(5カ月)は、大きな障害になっていた。しかし10月3日、ハムダッラー首相が、給与遅延問題を解決するためのカタールの支援金をガザに送る手続について国連との合意が成立したと発表している。また今回イスラエルが、西岸に住む閣僚らが、イスラエルを経由してガザに入ることを許可したことも、前向きな材料になるだろう。

他方、アッバース大統領は、まだガザを訪問していない。ハマースは、夏の戦闘で戦死したイスラエル軍兵士2人の遺体を、パレスチナ囚人と交換しようとしているが、この交渉をハマース自らが行うとしている。統一政権がガザ統治体制を確立するには、今後も紆余曲折があるだろう。

(中島主席研究員)

©本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799